

経口5FU製剤が使用できない

化学療法歴のない・HER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌
 オプジーボ+mFOLFOX6療法 患者プロトコール

催吐リスク
中等度
放射線併用なし

投与プロトコール 1コース14日間 コース数: オプジーボ: 2年間、FOLFOX療法: 制限なし 《開始時基準 PS: 0~1 年齢: 18歳~》		投与量	投与日	投与時間	備考	
ルートキープ	生食500mL	—	—	—	※NK1受容体拮抗薬投与については患者毎に検討	
①	オプジーボ: 240mg/body 生食100mL	mg	Day1	30分		
フラッシュ	ルートキープ用輸液でフラッシュする					
プレメディ	5-HT3R拮抗剤 + デキサメタゾン + 生食100mL		Day1	30分		
②	エルプラット: 85mg/m ² 5%ブドウ糖 500mL	mg	Day1	2時間		
③	レボホリナート: 200mg/m ² 5%ブドウ糖パック 250mL	mg	Day1	2時間		
★②・③は同時に投与						
④	5-FU(急速): 400mg/m ² 5%ブドウ糖 100mL	mg	Day1	全開		
⑤	5-FU(持続): 2400mg/m ² 生食 (トレフューザーtypeT流量換算表より算出)	mg mL	Day1	46時間		
5-FU(持続)の投与量に合わせて、トレフューザーtypeT流量換算表より生食量を算出する。						

◆オプジーボ投与時の総液量は、体重30kg以上の患者では総液量を150mL以下とする。
 ※体重30kg未満の患者では、総液量を100mL以下とするため、生食50mLに希釈する。
 ◆5-FU持続投与では、トレフューザーtypeT150mLを使用し、3.7ml/Hrにて投与。
 ◆5-FUと生食の比率で流速変化する為、生食投与量はトレフューザーtypeT流量換算表を参照すること。